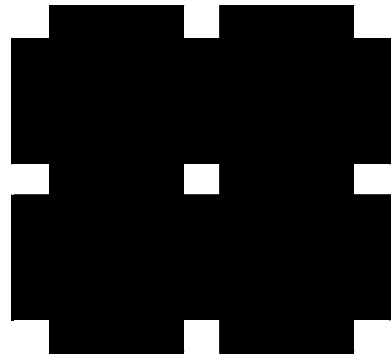


平成 27 年度

# 事業概要



岐阜市保健所食肉衛生検査所

## 目 次

第1章	総 説	
1	沿 革	1
2	組織・機構	3
3	職員構成	3
4	所轄と畜場及び食鳥処理場	3
5	と畜場設置許可申請手数料	3
6	検査手数料等	4
7	検査所平面図	4
8	主要検査機器	5
第2章	と畜検査業務	
1	と畜検査頭数	
(1)	年度別と畜検査頭数	7
(2)	月別と畜検査頭数	8
(3)	と畜場外と畜頭数	8
(4)	緊急と畜検査頭数	8
(5)	牛産地別出荷頭数	8
2	と畜検査結果に基づく措置	
(1)	獣畜のと畜禁止又は廃棄したものの疾病別内訳	9
(2)	一部廃棄したものの病類別内訳	10
(3)	過去10年間の疾病別全部廃棄の推移	12
3	精密検査実施状況	
(1)	精密検査件数	13
(2)	残留抗菌性物質検査件数	13
(3)	抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数	13
(4)	BSEスクリーニング検査頭数	14
(5)	枝肉の微生物汚染調査件数	14
(6)	グリア繊維性酸性タンパク (GFAP) 残留量調査件数	14
第3章	食鳥検査業務	
1	検査羽数	
(1)	月別食鳥検査羽数	15
(2)	年度別検査羽数推移	16
2	精密検査実施状況	
(1)	精密検査件数	17
(2)	残留抗菌性物質検査件数	17
(3)	抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数と内訳	17
3	検査廃棄処分したものの内訳	
(1)	食鳥のとさつ、内臓摘出禁止又は廃棄したものの原因	18
(2)	月別疾病羽数・処分羽数	19
第4章	その他の事業	
	衛生講習会等の実施状況	20
第5章	調査研究	
1	調査研究発表一覧	21
2	平成27年度調査研究 牛の多発性筋肉出血(スポット)発生に関する調査	22
第6章	付 表	
	食肉市場の概要	25

# 第1章 総 説

## 1. 沿革

大正12年	3月	岐阜市上加納山にと畜場設置(市営と畜場)
昭和24年	12月	法改正により岐阜市が政令市となる と畜検査業務が、岐阜市保健所所管となる
昭和42年	11月	岐阜市茜部5635の1にと畜場を新築移転 岐阜市食肉センターと改称 岐阜市南保健所衛生課と畜検査係となる
昭和48年	1月	岐阜市食肉地方卸売市場として開設許可を受ける
昭和49年	4月	岐阜市南保健所食肉検査課となる
昭和52年	4月	町名変更により岐阜市境川5-148となる
昭和56年	2月	食肉検査室完成 鉄骨平屋建 68㎡
昭和56年	4月	機構改革により岐阜市中央保健所食肉検査課となる
昭和63年	2月	食肉検査室増改築完成 鉄筋コンクリート二階建一部鉄骨平屋建 308㎡
平成 4年	4月	食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の 施行により食鳥検査業務が食肉検査課所管となる 検査一係 ・ 検査二係となる
平成 6年	4月	名称変更により岐阜市中央保健所食肉衛生検査所 となる
平成 9年	4月	機構改革により岐阜市保健所食肉衛生検査所となる と畜検査係 ・ 食鳥検査係となる
平成11年	4月	名称変更により、と畜検査係が食肉検査係となる
平成12年	4月	機構改革により岐阜市保健福祉部保健所食肉衛生 検査所となる
平成13年	10月	BSEスクリーニング全頭検査開始
平成14年	4月	BSE専用検査室完成
平成15年	4月	機構改革により岐阜市市民健康部保健所食肉衛生 検査所となる 食肉検査グループ ・ 食鳥検査グループとなる
平成17年	4月	と畜検査手数料を改定
平成20年	4月	機構改革により市民健康部が健康部となる
平成23年	4月	機構改革により食肉検査係・食鳥検査係となる
平成25年	7月	BSEスクリーニング検査対象牛が48か月齢超に 変更され、全頭検査が見直しとなる

〒500-8266

岐阜市境川5丁目148番地

電話 (058) 275-1550

FAX (058) 275-1554

## アクセス方法

### ○鉄道利用の場合

#### 1) 駅よりタクシー利用の場合

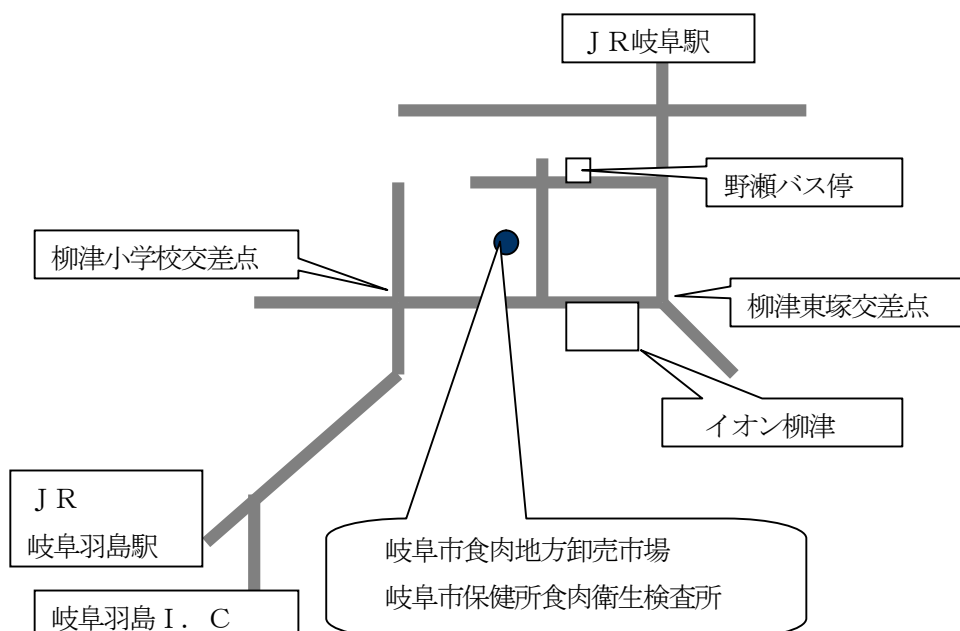
J R岐阜駅、J R新幹線岐阜羽島駅より、「岐阜市食肉地方卸売市場」へ

#### 2) 駅よりバス利用の場合

J R岐阜駅より、岐阜バス三田洞茜部線 「高桑行き」に乗車し野瀬バス停下車後  
前進し最初の交差点を左折し600m南進

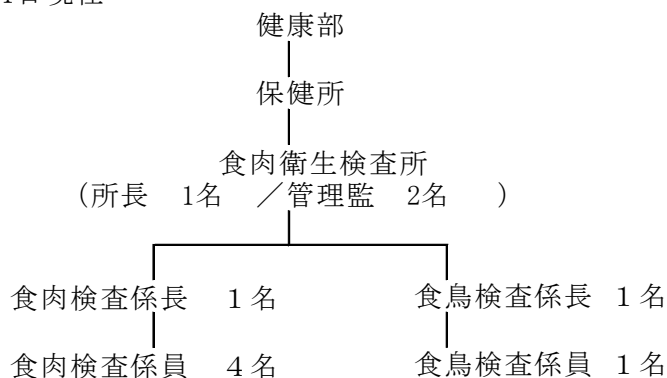
### ○高速道路利用の場合

名神高速岐阜羽島 I. C出口を左折し直進後、県道151号（岐阜羽島線）に右折  
直進して県道1号に合流して進み柳津小学校前交差点を右折して、9番目の交差点を  
左折し200m直進



## 2. 組織・機構

平成28年4月1日現在



## 3. 職員構成

平成28年4月1日現在

職名	人数
所長	1
管理監	2
副主幹	2 (係長 2名)
主査	2
副主査	3
嘱託職員	3 (食肉検査係 3名)
計	13

## 4. 所轄と畜場及び食鳥処理場

平成28年4月1日現在

所轄	名称	所在地
と畜場	岐阜市食肉地方卸売市場	岐阜市境川5丁目148
食鳥処理場	株式会社ギフシヨク	岐阜市安食491

## 5. と畜場設置許可申請手数料

平成28年4月1日現在

区分	金額(円)	最終改正年月日
一般と畜場	22,000	平成12年3月31日
簡易と畜場	10,800	平成12年3月31日

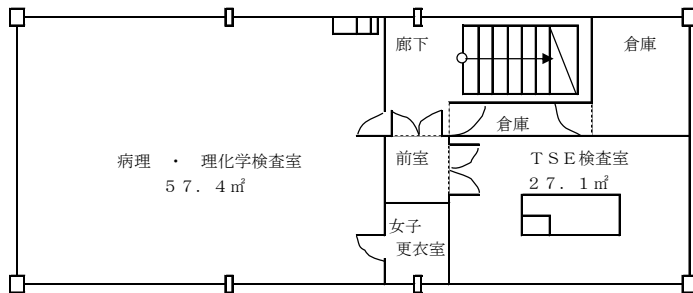
## 6. 検査手数料等

平成28年4月1日現在

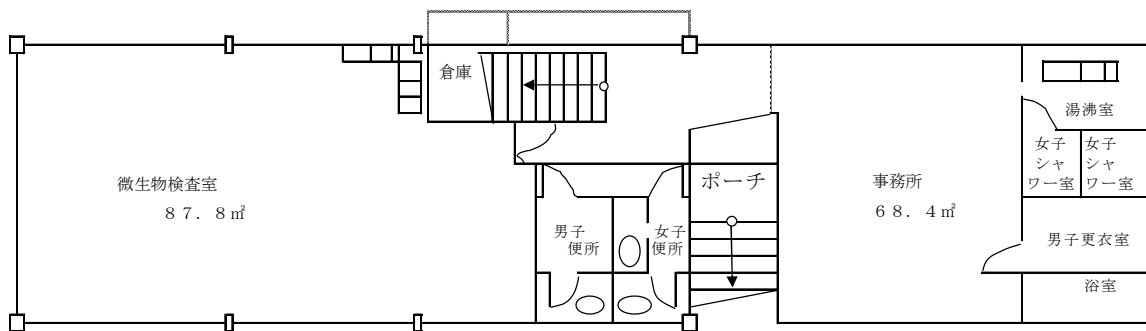
畜種	検査手数料	と畜場使用料	解体料	備考
牛・馬	700	2,592	4,320	
豚	300	864	2,057	枝肉重量100kg以上
	300	864	1,080	
とく	300	864	1,080	
めん羊・山羊	300	864	1,080	
食鳥	3	—	—	

(1頭又は1羽につき 単位：円)

## 7. 検査所平面図



2階



1階

出入口

## 8. 主要検査機器

### 微生物関係

機器名	数量	型 式
デシケーター	2	井内 WWN他
電子上皿天秤	2	メトラー PJ-360 TANITA KD-200
超音波洗浄器	1	ヤマト IC-42
薬用冷蔵庫	6	サンヨー MPR-1011他
ディープフリーザー	1	日本フリーザー VT-208
恒温振盪水槽	1	東洋アドバンテック TS-20S
バイオクリーンベンチ	1	サンヨー MCV-B161F
蛍光顕微鏡	1	オリンパス BHS-RFK-AI型
倒立顕微鏡	1	オリンパス CK2-TR
顕微鏡撮影装置一式	2	オリンパス BH-2 ニコン eclipse 80i、KEYENCE VB-7010
現像焼付装置一式	1	オリンパス
スライド投影器	1	キャビン工業オートキャビン
ストマッカー	1	グンゼマスティケーター 400D
ホモジナイザー	1	日立 HG30
フリーザー	1	サンヨー MDF-235
CO <sub>2</sub> インキュベーター	1	サンヨー MCO-175
インキュベーター	2	サンヨー MIR-252
	1	ヤマト IC-102
オートクレーブ	1	サンヨー MLS-3000
	1	サンヨー MLS-3750
乾熱滅菌器	2	ADVANTEC DRM620TB ヤマト SG-81
恒温乾燥機	1	サンヨー MDV-102
DNA増幅装置	2	宝酒造 TP-3000 Verit™ 200
電気泳動装置一式	1	イワキ ALB-301
電気泳動撮影装置	1	フナコシ FP-6000
トランスイルミネーター	1	フナコシ LM-20-E
微量高速遠心器	1	トミー MX-160
製氷器	1	ホシザキ KM
デンスイトグラフシステム1式	1	バイオ・ラッド・ラボラトリー Gel Doc PCシステム
蒸留水製造装置	1	ADVANTEC RFD240NA
超純水製造装置	1	ミリポア SIMSV0000
薬品保管庫	1	セーフティキャビネットSF-5BE

### BSE関係

機器名	数量	型 式
電子上皿天秤	1	ザルトリウス 363-65-58-19
細胞・試料破碎装置	1	安井器械 マルチビーズショッカー
	2	フナコシ FastPrep FP120
電動連続分注器	5	エッペンドルフ マルチヘッドプロ、マルチヘッドstream、マルチヘッドプラス×3
恒温水槽	1	アズワン サーマルロボTR-1A
冷却遠心機	2	クボタ 3615、エッペンドルフ Centrifuge 5417R
ボルテックス	2	VORTEX GENIE2 G560
サーモアルミバス (2槽式)	1	IWAKI DOUBLE ALUMI BATH ALB-301
	1	COOL STAT anatech モデル 5520a
マイクロプレートウォッシャー	2	バイオラッド モデル 1575
マイクロプレートリーダー	2	バイオラッド モデル 550、Thermo Multiskan FC Type357
冷凍冷蔵庫	1	SANYO MEDICOOL MPR-414FS
高圧蒸気滅菌器	1	TOMY精工 KS-323
安全キャビネット	1	HITACHI SCV



### 理化学関係

機器名	数量	型 式
遠心分離機	2	KOKUSAN H-103N
分光光度計	1	島津 UV-120-02
アスピレーター	1	イワキ ASP-13MDA
恒温器	1	ヤマト IC-102
ロータリーエバポレーター	2	東京理化 N-1000型
電気泳動装置	1	アトー科学
高速液体クロマトグラフ	1	島津 LC-10Aシステム
	1	島津 Nexeraシステム
電子上皿天秤	1	PB303-S 島津AUV220D
超音波洗浄器	1	エルテック UT-30A
ピペット用超音波洗浄器	1	島津 SUS-100PN
薬用保冷庫	3	サンヨー MPR-504他
バイオメディカルフリーザー	1	三洋電気(株) MDF-U338他
赤外線水分計	1	島津 TV-250D
全自動スーパードライシステム	2	スポットケムSP-4410 スポットケムSP-4430
pHメーター	1	東亜DKK HM-30G
振とう器	1	ヤマト SA300
蒸留水製造装置	1	アドバンティック RFD230RA

### 病理関係

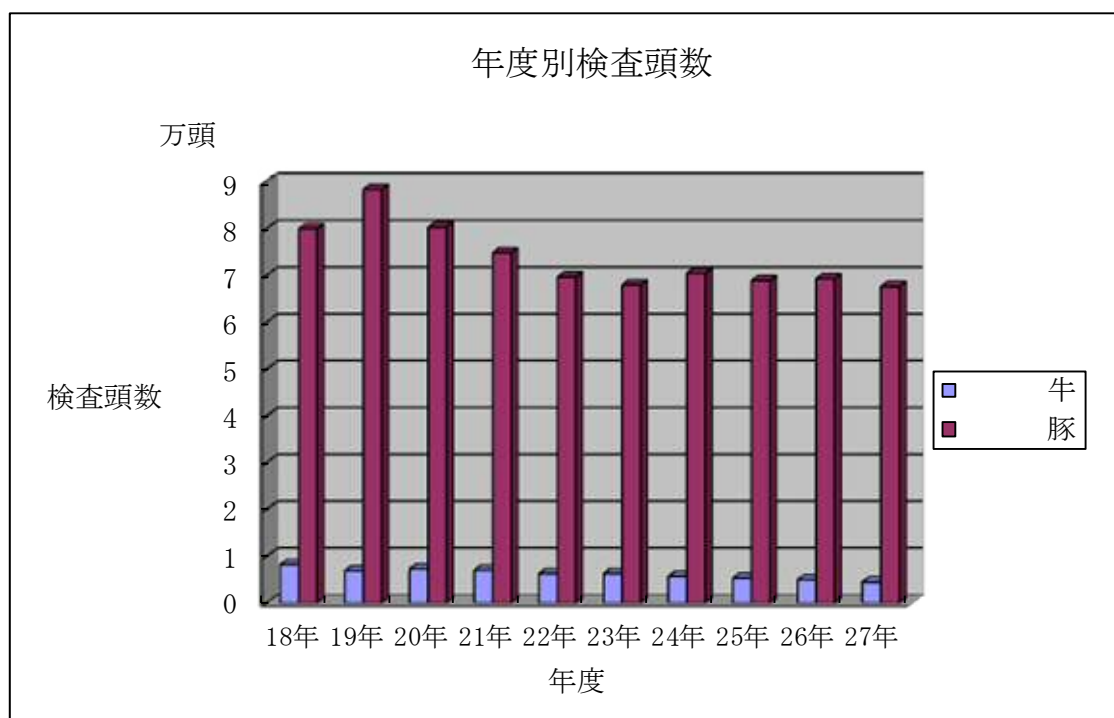
機器名	数量	型 式
マイクローム 一式	1	ヤマト工機 TU-213
クリオスタット	1	白井松 スターレット2122
パラフィン溶融器	1	池本理化 B1
ドラフトチャンバー	1	ヤマト FRS-120型
実体顕微鏡	1	オリンパス SZH10-131
自動包埋器	1	白井松 オーキット1400P
パラフィン伸展器	1	サクラ PS-52
フリーザー	1	三洋 MDF-330
ドライキーパー	1	島津 ED-130

## 第2章 と畜検査業務

# 1. と畜検査頭数

## (1) 年度別と畜検査頭数

年度 \ 畜種	牛	馬	豚	とく	めん羊 山羊	総数
18年	8,231		79,950	1		88,182
19年	6,908		88,368	1		95,277
20年	7,295		80,306			87,601
21年	7,015		74,846	3		81,864
22年	6,290		69,647			75,937
23年	6,306	1	67,975			74,282
24年	5,702		70,467			76,169
25年	5,350		68,880	3		74,233
26年	4,980		69,302			74,282
27年	4,484		67,622			72,106



(2) 月別と畜検査頭数

月	畜種		黒毛和種		交雑種		ホルスタイン種		肉専用種		牛計	とく	馬	豚	めん羊	山羊	総数
	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢	雌	去勢									
4	120	214	1	6	0	4	0	14	359	0	0	5,357	0	0	0	0	5,716
5	106	222	4	7	0	3	0	16	358	0	0	4,957	0	0	0	0	5,315
6	79	164	0	3	0	3	0	11	260	0	0	5,477	0	0	0	0	5,737
7	154	279	4	5	0	2	0	13	457	0	0	5,881	0	0	0	0	6,338
8	88	183	0	4	0	3	0	11	289	0	0	5,208	0	0	0	0	5,497
9	87	203	0	6	0	4	0	11	311	0	0	5,515	0	0	0	0	5,826
10	122	278	2	6	0	4	0	14	426	0	0	6,127	0	0	0	0	6,553
11	175	283	2	6	0	2	0	13	481	0	0	6,202	0	0	0	0	6,683
12	161	389	0	10	0	2	0	12	574	0	0	5,712	0	0	0	0	6,286
1	100	228	1	4	0	2	0	7	342	0	0	5,758	0	0	0	0	6,100
2	79	179	0	6	0	2	0	11	277	0	0	5,520	0	0	0	0	5,797
3	102	225	2	4	0	2	0	15	350	0	0	5,908	0	0	0	0	6,258
総数	1,373	2,847	16	67	0	33	0	148	4,484	0	0	67,622	0	0	0	0	72,106

(3) と畜場外と殺頭数

畜種	牛	とく	馬	豚	合計
切迫と殺					
不慮の災害による負傷	0	0	0	0	0
不慮の災害で救うことのできない状態	0	0	0	0	0
難産	0	0	0	0	0
産褥麻痺	0	0	0	0	0
急性鼓脹症	0	0	0	0	0

(4) 緊急と畜検査頭数

畜種	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
牛		4	4	2	2	4	3	0	5	0	5	2	1	32
豚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(5) 牛産地別出荷頭数

出荷県	黒毛和種			交雑種			ホルスタイン種			肉専用種			総計
	雌	去勢	計	雌	去勢	計	雌	去勢	計	雌	去勢	計	
岐阜	1,364	2,836	4,200	14	9	23	0	0	0	0	148	148	4,371
福井	0	0	0	1	58	59	0	0	0	0	0	0	59
静岡	0	0	0	0	0	0	0	16	16	0	0	0	16
神奈川	6	9	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
三重	0	0	0	0	0	0	0	14	14	0	0	0	14
愛知	0	1	1	1	0	1	0	3	3	0	0	0	5
栃木	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石川	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
島根	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長崎	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	1,373	2,847	4,220	16	67	83	0	33	33	0	148	148	4,484

## 2. と畜検査結果に基づく措置

### (1) 獣畜のと殺禁止又は廃棄したものの疾病別内訳

畜種	牛			とく			馬			豚			めん羊			山羊				
	措置	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	
処分実頭数		11	2,928								103	32,879								
細菌病	炭疽																			
	豚丹毒																			
	サルモネラ症																			
	結核病																			
	ブルセラ病																			
	破傷風																			
	放線菌症																			
	その他																			
リケッチャ・ウイリス病	豚コレラ																			
	その他																			
原虫病	トキソプラズマ病																			
	その他																			
寄生虫病	のう虫病																			
	ジストマ病			16																
	その他											6,058								
その他の疾病	膿毒症		1								78									
	敗血症		4								13									
	尿毒症		2								1									
	黄疸		1	4							3	2								
	水腫			147								602								
	腫瘍										1	4								
	中毒諸症																			
	炎症又は炎症産物による汚染			5,728							7	45,607								
	変性又は萎縮			424								2,184								
その他		3	1,546								11,336									
計		11	7,865							103	65,793									

(2) 一部廃棄したものの病類別内訳

病類	畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
消化器系	肝 肝 蛭 症	16					
	肝 間 質 炎				3,833		
	肝 膿 瘍	155			11		
	肝 包 膜 炎	76			1,756		
	胆 管 炎	135					
	肝 炎	64			392		
	褪 色 肝	490			4,592		
	脂 肪 肝						
	肝 硬 変	3			2		
	肝 富 脈 斑						
	肝 出 血 斑	806					
	鬱 血 肝	7			1		
	鋸 屑 肝	363					
	肝 腫 瘍						
	胃 炎	670				383	
	創 傷 性 胃 炎					9,382	
	胃 潰 瘍						
	鼓 張 症						
	小 腸 炎	670				2,803	
	大 腸 炎	693				2,803	
	大 腸 粘 膜 変 色						
	腸 間 膜 脂 肪 壊 死	22					
	腸 間 膜 リンパ 乾 酪 変 性					89	
	腸 リンパ 壊 死						
	腸 間 膜 水 腫	1				14	
	腸 間 膜 膿 瘍					1	
	直 腸 脱	1				23	
	鎖 肛					1	
	回 虫 寄 生					2,225	
	腸 気 泡 症						
	膺 臓 炎						
	へ ル ニ ア					338	
腹 膜 炎	7				1,240		
直 腸 周 囲 脂 肪 壊 死	28						
呼吸循環器系	肺 炎	63			9,981		
	肺 膿 瘍	13			3,399		
	胸 膜 炎	15			4,612		
	血 液 吸 入 肺				3,703		
	異 物 吸 入 肺						
	肺 氣 腫	15			1,982		
	肺 水 腫						
	心 外 膜 炎	3			2,516		
	心 内 膜 炎	4			13		
	心 内 膜 出 血	2					
	心 筋 出 血	1					
	心 筋 変 性	1			3		
	心 膿 瘍				2		
	心 筋 炎	2			1		
	横 隔 膜 水 腫	2			1		
	横 隔 膜 膿 瘍	22			8		
	横 隔 膜 筋 肉 出 血	4					
	横 隔 膜 炎						
	縦 隔 膜 水 腫	5					
	縦 隔 膜 膿 瘍	3					
	縦 隔 膜 筋 肉 出 血	3					
	縦 隔 膜 炎						
	脾 う っ 血					2	
脾 膿 瘍					1		
脾 腫					1		
脾 出 血 梗 塞							

病類		畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊	山羊
泌尿生殖器系	腎炎	9				67		
	腎膿瘍	15				4		
	腎嚢胞	1				1,010		
	腎水腫							
	腎脂肪壊死	238				1		
	腎脂肪変性							
	腎脂肪水腫	7						
	腎結石	10						
	膀胱炎	9				1		
	膀胱結石	12				1		
	膀胱破裂							
	尿道炎	4						
	尿道結石	6						
	妊娠子宮死胎	1				27		
	卵巣腫瘍					4		
	卵巣嚢腫					6		
	子宮内膜炎					3		
	子宮蓄膿症					5		
	子宮脱							
	膣脱	1				3		
乳房炎					4			
皮膚運動器系	皮膚炎	5				3		
	角損傷	1						
	四肢骨折	2				83		
	その他骨折	8				11		
	脱臼	14				81		
	関節炎	30				745		
	四肢膿瘍	4				594		
	その他膿瘍	21				2,143		
	筋肉水腫	124				580		
	筋肉変性	107				810		
	筋肉出血	26				127		
	褥創					2		
	打撲傷	613				1,860		
	咬傷					602		
	挫傷	2				1		
	火傷					29		
	裂傷							
	脂肪変性	27				262		
	脂肪水腫	6				6		
	腫瘍					5		
血腫					16			
その他	1				5			
その他	放線菌症							
	奇形	179				573		
	抗生物質陽性							

(3) 過去10年間の疾病別全部廃棄の推移（と畜場法・食品衛生法による）

疾病名	年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
		牛										
敗血症			2		4	1	4	1	2	3	4	21
膿毒症											1	1
尿毒症		3	10	9	7	13	10	7	6	8	2	75
高度の黄疸		2	2	2		2	2	1	2	6	1	20
高度の水腫		1		1		2		1	1	1		7
白血病			1	3	2	2	4	5	2	2	3	24
中毒諸症												0
炎症産物等による汚染				1								1
腫瘍								2				2
抗菌性物質等残留												0
合計		6	15	16	13	20	20	17	13	20	11	151
豚												
敗血症		12	19	32	23	25	34	7	12	15	13	192
膿毒症		29	71	81	58	91	91	112	89	95	78	795
豚丹毒			1	8	5	1						15
尿毒症		1	3	2	2	6	6	5	1	2	1	29
高度の黄疸		1	3				1				3	8
白血病		3							1			4
熱性諸症												0
抗菌性物質等残留												0
その他		1	1	2	1	4	6	6	5	11	8	45
合計		47	98	125	89	127	138	130	108	123	103	1088



### 3. 精密検査実施状況

#### (1) 精密検査件数

畜種	項目 病類		検査頭数	精密検査内容				処分 全部廃棄頭数	
				細菌	病理	理化学			原虫その他
						血液検査	その他		
牛	敗血症	疣状心内膜炎	3	3		2	1		3
		その他	1	1		1			1
	尿毒症	27			27	5			2
	黄疸	1			1	1			1
	水腫	1			1	1			
	炎症	1			1	1			
	白血病	4		4	2	1			3
	その他	131			131	45			1
豚	敗血症	疣状心内膜炎	12	12					12
		その他	1	1					1
	尿毒症	2			2	1			1
	黄疸	4			4	1			3
	膿毒症	4			4	4			4
	白血病								
	豚丹毒								
	変性または萎縮炎	2			1	2			2
中毒									
その他	29			29	27			0	
総計			223	17	4	206	90	0	34

#### (2) 残留抗菌性物質検査件数

##### I 病畜検査

畜種	検査頭数	検査検体数	陽性検体数	
			筋肉	腎臓
牛	50	100	0	0
豚	33	66	0	0
合計	83	166	0	0

##### II 繁殖豚検査

検査頭数	陽性頭数
420	0

#### (3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング調査件数

検査項目名	畜種	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	牛	178	全て基準値以下
	豚	178	
内部寄生虫用剤	牛	24	
	豚	24	

(4) 牛海綿状脳症（BSE）スクリーニング検査頭数

月 齢	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
30か月齢以下		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30か月齢超 48か月齢以下		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48か月齢超		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【参考】と畜牛月齢

月 齢	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
30か月齢以下		256	269	198	345	220	227	322	358	468	248	180	245	3,336
30か月齢超 48か月齢以下		103	89	62	112	69	84	104	123	106	94	97	105	1,148
48か月齢超		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		359	358	260	457	289	311	426	481	574	342	277	350	4,484

最高月齢	36.0	35.6	35.1	39.7	36.1	35.7	36.7	35.1	32.5	33.5	35.0	35.0	
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--

(5) 枝肉の微生物汚染調査件数

畜種	検査頭数	検査検体数	検査項目					
			一般生菌数	大腸菌群数	0-157	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌
牛	125	250	250	250	250	250	250	250
豚	140	280	280	280	280	280	280	280
計	265	530	530	530	530	530	530	530

(6) グリア繊維性酸性タンパク（GFAP）残留量調査件数

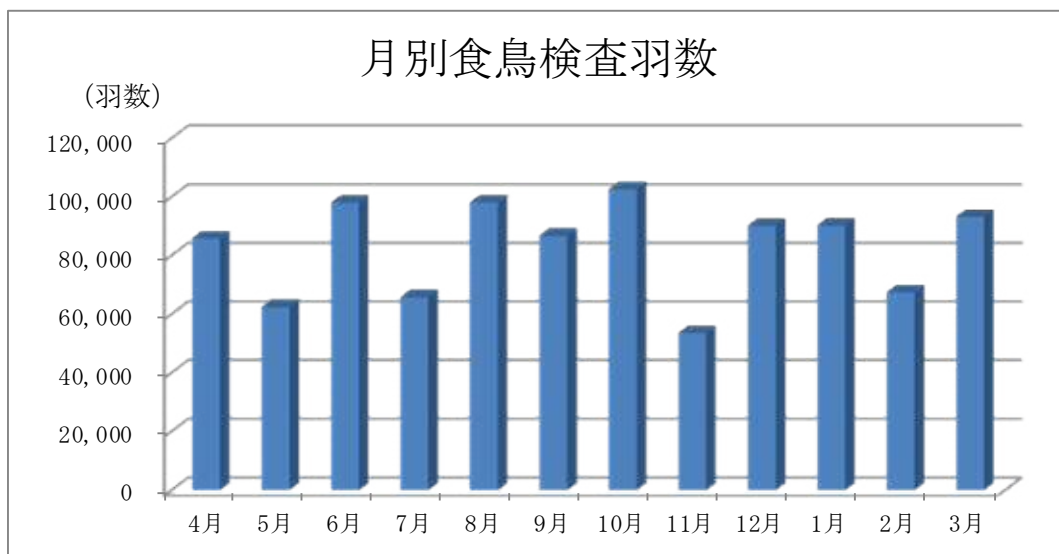
検査対象	検査頭数	検査検体数
牛枝肉	40	80

## 第3章 食鳥検査業務

# 1 検査羽数

## (1) 月別食鳥検査羽数

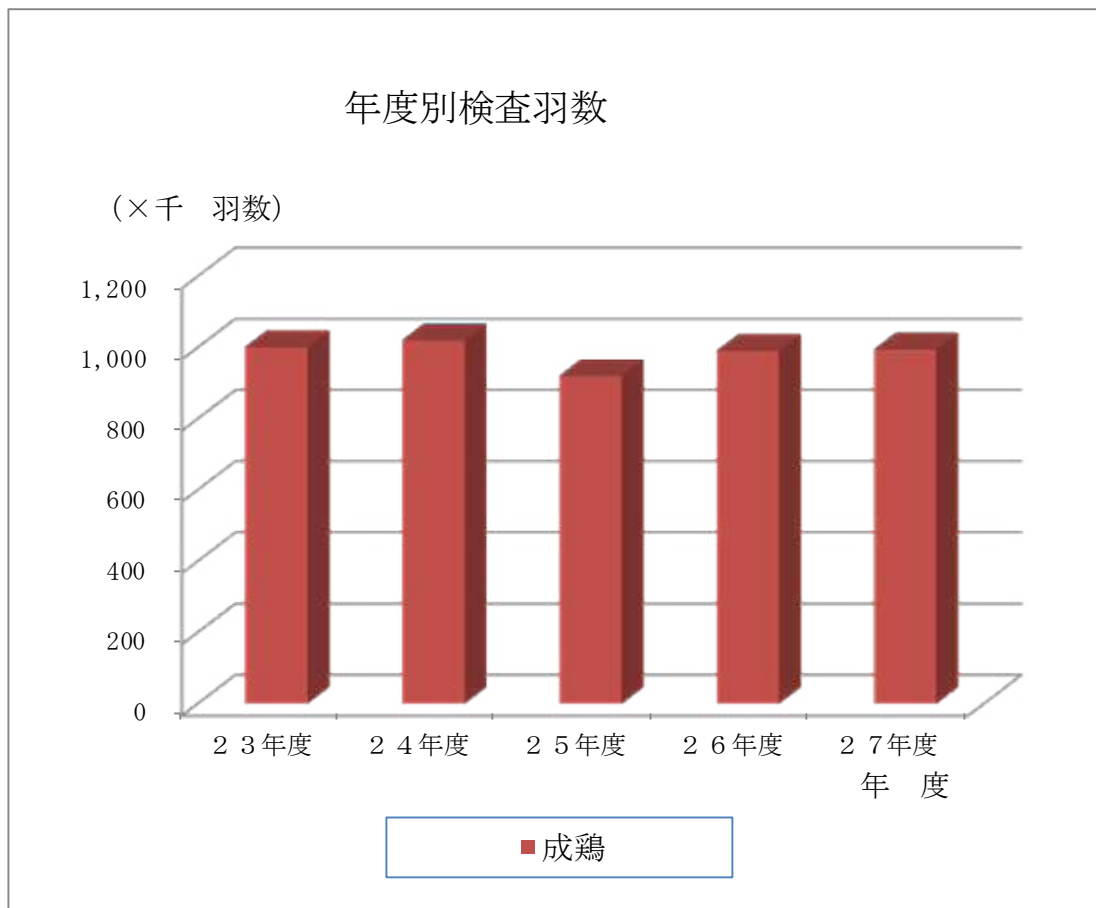
月	ブロイラー	成鶏	あひる/七面鳥	計
4月	0	85,894	0	85,894
5月	0	62,524	0	62,524
6月	0	98,111	0	98,111
7月	0	65,877	0	65,877
8月	0	98,199	0	98,199
9月	0	86,779	0	86,779
10月	0	102,681	0	102,681
11月	0	53,651	0	53,651
12月	0	90,226	0	90,226
1月	0	90,340	0	90,340
2月	0	67,546	0	67,546
3月	0	93,348	0	93,348
	0	995,176	0	995,176



(2) 年度別検査羽数推移

年度	ブロイラー	成鶏	あひる/七面鳥	検査羽数
23年度	0	1,001,585	0	1,001,585
24年度	0	1,021,146	0	1,021,146
25年度	0	921,177	0	921,177
26年度	0	991,665	0	991,665
27年度	0	995,176	0	995,176

\*ブロイラー処理施設が平成21年10月1日より休業、平成22年8月6日より廃止



## 2 精密検査実施状況

### (1) 精密検査件数

検査項目	と体（肉類等）	手指、作業器具等	車両、輸送容器
一般生菌数	157	34	25
大腸菌群数	157	34	25
黄色ブドウ球菌数	157	34	25
カンピロバクター属菌	157	34	25
サルモネラ属菌	157	34	25

### (2) 残留抗菌性物質検査件数

検体	検査検体数	陽性検体数
腎臓等	43	0

### (3) 抗菌性物質等の残留物質モニタリング検査件数

検査項目	検査検体数	検査結果
抗菌性物質	8※	全て基準値以下
内部寄生虫用剤	3	

※延べ検体数は28

内訳

検体	延べ検体数	検査項目	備考
鶏の筋肉	3	フルベンダゾール	内部寄生虫用剤
	4	スルファジミジン	合成抗菌剤
	4	ナイカルバジン	合成抗菌剤
	4	スルファジメトキシシン	合成抗菌剤
	4	スルファメラジン	合成抗菌剤
	4	スルファキノキサリン	合成抗菌剤
	4	クロピドール	合成抗菌剤
	2	テトラサイクリン系	抗生物質
2	ベンジルペニシリン	抗生物質	
合計	31		

### 3 検査廃棄処分したものの内訳

(1) 食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ、内臓の摘出禁止または廃棄したものの原因

平成27年度										
検査羽数		ブロイラー			成 鶏			あひる／七面鳥		
		0			995,176			0		
		禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄	禁止	全部 廃棄	一部 廃棄
処分実羽数					22,850	2,303	5,487			
疾病別	ウイ ン ミ ス ブ ア 病	鶏痘			0	0	0			
		伝染性気管支炎			0	0	0			
		伝染性喉頭気管炎				0	0	0		
		ニューカッスル病				0	0			
		鶏白血病				0	0			
		封入体肝炎				0	0			
		マレック病				0	0			
	その他				0	0				
	細菌病	大腸菌症				0	0			
		伝染性コリーザ				0	0	0		
サルモネラ症					0	0				
ブドウ球菌症					0	0				
その他					0	0				
その他	毒血症				0	0				
	膿毒症				0	0				
	敗血症				0	0				
	真菌症				0	0				
	原虫病				0	0	0			
	寄生虫病				0	0	0			
	変性				0	0	0			
	尿酸塩沈着症				0	0	0			
	水腫				0	0	0			
	腹水症				8,827	645				
羽数	出血				0	0	3,469			
	炎症				957	265	313			
	萎縮				0	0	0			
	腫瘍				906	464	0			
	臓器の異常な形等				0	0	0			
	異常体温				0	0				
	黄疸				1,693	78				
	外傷				256	11	1,703			
	中毒諸症				0	0				
	削瘦及び発育不良				8,761	800				
放血不良				1,414	40					
湯漬過度				36	0					
その他				0	0	2				
計		0	0	0	22,850	2,303	5,487	0	0	0

## (2) 月別疾病羽数・処分羽数

平成27年度

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
処理羽数	85,894	62,524	98,111	65,877	98,199	86,779	102,681	53,651	90,226	90,340	67,546	93,348	995,176
死鳥	252	121	457	97	208	157	216	97	120	140	108	342	2,315
禁止	1,916	1,120	2,094	1,314	3,097	2,539	2,785	1,082	1,580	2,166	1,140	2,017	22,850
全部廃棄	0	0	270	37	30	35	227	66	1,008	426	27	177	2,303
一部廃棄	492	496	462	557	342	522	543	370	508	422	252	521	5,487
禁止の内訳													
著しい削瘦	641	308	714	473	1,604	1,185	1,247	219	579	910	359	522	8,761
腹水症	680	498	983	529	1,198	950	926	676	625	663	461	638	8,827
腹膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
炎症	81	40	26	32	33	90	123	32	79	87	58	66	747
外傷	22	16	15	11	11	42	58	24	7	9	14	27	256
皮膚病	73	6	15	7	12	21	31	1	11	15	4	14	210
放血不良	22	25	54	84	65	67	159	62	79	298	136	363	1,414
黄疸	342	186	224	118	82	98	124	13	127	84	28	267	1,693
腫瘍	50	38	62	60	89	85	112	52	71	93	77	117	906
その他	5	3	1	0	3	1	5	3	2	7	3	3	36
全部廃棄の内訳													
著しい削瘦	0	0	57	7	9	13	120	30	329	189	8	38	800
腹水症	0	0	61	13	7	13	73	13	275	137	4	49	645
腹膜炎	0	0	4	0	2	3	10	0	158	45	0	6	228
大腸菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サルモネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ブドウ球菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黄疸	0	0	66	0	0	0	0	4	1	7	0	0	78
皮膚病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マレック病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷	0	0	0	1	1	1	0	2	4	2	0	0	11
放血不良	0	0	3	1	2	2	5	0	20	2	1	4	40
炎症	0	0	0	0	0	0	3	2	5	11	12	4	37
白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
DFD	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敗血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫瘍	0	0	79	15	9	3	16	15	216	33	2	76	464
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一部廃棄の内訳													
変性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
出血	246	309	315	385	211	317	334	244	339	279	154	336	3,469
炎症	40	14	15	12	35	18	36	19	35	20	37	32	313
腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外傷	206	171	132	160	96	187	173	107	134	123	61	153	1,703
その他	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

※前ページ禁止の「炎症」は、本ページ 禁止の内訳「炎症」と「皮膚病」の合計



## 第4章 その他の事業

## 1 衛生講習会等の実施状況

(1) と畜作業員に対し、ペタンチェック(スタンプ法)を用いて、作業中の器具、手洗いについての衛生指導を行った。

(2) 衛生管理と食の安全への意識向上啓発

- ・ 場内衛生担当者会議(参加団体9団体) 4回
- ・ 「食肉衛生検査所通信」の発行 4回

(3) HACCPに関する講習会 2回実施

場内業者に対し、HACCPの基本的な知識の普及、重要管理点の設定方法等について、説明を行った。

## 2 危機管理演習等の実施状況

(1) 中央家畜保健衛生所(岐阜県)と連携し、大規模食鳥処理場において高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が発見された場合を想定した机上演習を実施した。また、食鳥処理業者に対し、「処理場HPAI発見時防疫マニュアル」の作成指導を行い、マニュアルを整備させた。

(2) 危機管理体制を充実するためにと畜関係者等に主要な牛、豚の感染症及び消毒方法についての講習会を行い、緊急時の必要な対応について再確認させた。

## 第5章 調査研究

1. 調査研究発表一覧

年	月	発表演題	発表場所
13	2	豚の大腸における水腫様病変の病理学的検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛の内臓の細菌汚染状況について	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	2	牛内臓から検出された病原細菌に関する検討	平成12年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
13	10	牛内臓搬送ラインの改良による肝臓細菌汚染防止効果について	第12回全食協東海北陸ブロック研修会
14	2	ブロイラー肝臓の細菌汚染対策について	平成13年度厚生労働省食鳥衛生検査技術研修会
14	11	豚の飼養管理とサルモネラ属菌保有状況との関係	第13回全食協東海北陸ブロック研修会
15	2	ELISAを用いた抗生物質検査法について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥由来 Salmonella Infantis のRAPDを用いた解析	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	食鳥処理場における微生物汚染調査と衛生指導について	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	2	豚丹毒抗体調査とPCRを用いた迅速診断	平成14年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
15	10	豚枝肉の微生物汚染状況について	第14回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	豚枝肉の微生物汚染原因についての一考察	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	2	食鳥処理場における食鳥と体および食鳥肉の微生物汚染状況	平成15年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
16	11	Haccperp水を用いた微生物汚染軽減の検討	第15回全食協東海北陸ブロック研修会
16	2	食鳥処理場における衛生指導	平成16年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
17	9	BSEスクリーニング検査陽性時の場内衛生対策演習について	第16回全食協東海北陸ブロック研修会
18	1	牛と畜時における、と体不動化装置を用いたピッシング廃止の取組について	平成17年度食肉衛生技術研修会
19	1	と畜場における、カンピロバクター属菌の汚染実態調査	平成18年度食肉衛生技術研修会
19	11	フルベンダゾール試験法アルミナ酸性カラム精製時におけるsoak法の検討	第18回全食協東海北陸ブロック研修会
20	2	ブロイラー肝臓の次亜塩素酸ナトリウムによる細菌汚染振盪効果について	平成19年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
20	10	QuEChERS法(クェッチャーズ法)を応用した豚肉中のスルファジミジンの迅速分析法の確立	第26回全国食肉衛生検査所協議会理化学部会研修会
20	11	炭疽の発生を想定した演習の実施について	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
20	11	豚枝肉の汚染状況の把握と衛生確保に向けての取り組み	第19回全食協東海北陸ブロック研修会
21	2	名古屋コーチンのサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成20年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
21	10	岐阜市食肉地方卸売市場における豚丹毒の発生状況とその分離菌株について	第20回全食協東海北陸ブロック研修会
22	2	食鳥処理場へ搬入された鶏のサルモネラ、カンピロバクター保菌状況調査	平成21年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
22	10	弱酸性次亜塩素酸水を用いた枝肉微生物汚染制御(報告)と今後の応用に関する検討	第21回全食協東海北陸ブロック研修会
23	2	成鶏から分離されたカンピロバクターのニューキノロン系薬剤耐性	平成22年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
24	1	SOPの映像化による、残留動物用医薬品検査法の伝達	平成23年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
24	10	口蹄疫の発生を想定した演習実施について	第22回全食協東海北陸ブロック研修会
26	1	管内食鳥処理場の衛生管理向上への取り組み	平成25年度岐阜県食肉衛生検査技術研修会
26	10	豚枝肉の細菌数軽減に向けた洗浄方法の検討	第23回全食協東海北陸ブロック研修会
27	10	牛の多発性筋肉出血(スポット)発生に関する調査	第24回全食協東海北陸ブロック研修会

## 牛の多発性筋肉出血（スポット）発生に関する調査

岐阜市食肉衛生検査所 ○小林佳子 桜井彰二  
古川智子 磯野元彦

### はじめに

牛の多発性筋肉出血、いわゆるスポットの発生による経済的損失は小さくない。しかし、その発生原因は特定のものに限定されておらず、未然防止に必要な発生メカニズムは、いまだ不明瞭な部分が多い。当と畜場においても、スポット発生の問題について苦慮しており、昨年8月から9月にかけて連続して同日に複数頭にスポットが発生したため、と畜手順等についてと畜業者から相談を受け、放血に影響があるとされる心臓周囲血管の切断部位の確認等を行い、ステッキング（のど刺し）方法等の検討について、助言協力を行ってきた。さらに、今年4月より、スタンニングによる牛の失神状態を改善するために、使用するスタンニングガンの種類を適応体重300kgから600kgのものに変更した。しかし、今年度始めにも連続してスポットが発生したため、5月中旬に放血方法を懸垂式から床式に変更した。また、スポット発生には、と殺前後の作業が影響する可能性も示唆されていることから<sup>(1)</sup>、スタンニングから吊り下げ完了までの映像を記録するとともに、心臓周囲血管の切断部位について記録し、過去のスポット発生状況との比較等により、スポット発生への影響について検討した。

### 材料および方法

- 1 調査期間 平成27年4月から8月末まで
- 2 調査頭数 黒毛和種1,185頭（去勢774頭、雌411頭）  
岐阜市と畜場に搬入された牛1,723頭のうち、放血工程を撮影した牛（H27/4/1～5/15は一部の牛、H27/5/20～8/28はほぼ全頭）
- 3 牛の放血方法
  - ①懸垂式（H27/4/1～5/15）スタンニング → と体懸垂 → ステッキング → 不動化処理
  - ②床式（H27/5/20～8/28）スタンニング → ステッキング → と体懸垂 → 不動化処理
- 4 映像記録  
スタンニングから吊り下げ、パルス電流による不動化までの流れを録画し、放血までの時間や牛の動き等について記録を行った。
- 5 心臓周囲血管の切断状況  
切断部位により、a（腕頭動脈）、b（左鎖骨下動脈・腕頭動脈分岐部）、c（左右総頸動脈）、d（腕頭動脈での縦切断）に分類、さらにa・bを「適」、c・dを「不適」として分類し、主に床式のものについて心臓周囲動脈の切断状況の分析を行った。（図1）

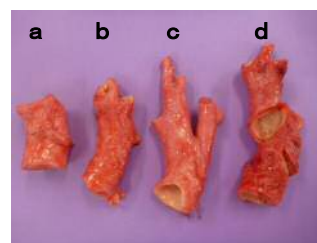


図1 心臓周囲血管  
切断部位の分類

## 結 果

### 1 スポットの発生状況について

#### 1) 平成26年度（検査頭数 4,980頭 うち黒毛和種 4,718頭）

スポット発生件数は21件、発生率は0.42%であった。このうち同一の肥育農家から複数の発生が認められ、最も多い肥育農家はスポット発生件数が10件で、発生率は2.3%であった。（表1）

スポット発生牛は、すべて黒毛和種去勢で、肝臓等の病変について、特に顕著な傾向は認められなかった。

表1 平成26年度スポットが複数発生した肥育農家

肥育農家	出荷頭数	スポット発生件数(率)	スポット発生部位	肝臓所見
A	428	10 (2.3%)	ロース 5 全身 5	褪色肝 2 鋸屑肝 1
B	199	3 (1.5%)	ロース 2 全身 1	鋸屑肝 1
C	109	3 (2.7%)	ロース 3	肝膿瘍 1
D	178	2 (1.1%)	ロース 2	肝斑状出血 1

#### 2) 平成27年4月～8月末（検査頭数 1,723頭 うち黒毛和種 1,609頭）

懸垂式での放血では、スポット発生が8件（全身2件・ロース6件）報告され、うち2件は平成26年度にも発生した肥育農家A・Bの牛であった。一方、床式での放血では、現在のところスポット発生は認められていない。

### 2 スタニングから放血までの映像による分析

#### 1) スタニング枠内での牛の行動（ほとんどの個体が前日搬入）

と畜直前に暴れた個体なく、追込みによる枠内でのストレスは確認できなかった。

#### 2) 放血方式（懸垂式と床式）比較

平均処理時間では、どちらの方式においても約47秒後には放血され、吊り下げられた状態であった。（表2・図2）

懸垂式では、スタニング直後の四肢の暴れや枠内への座り込みにより、ステッキングが65秒以上かかった例が10例あり、うち2例においてスポットが発生した。ステッキングまでの時間が50秒以内の牛ではスポットの発生は認められなかった。

表2 放血工程に係る所要時間

放血方式	スタニングからステッキング		スタニングから吊り下げ	
	平均	時間幅	平均	時間幅
懸垂式	約47秒	30～85秒	約20秒	5～60秒
床式	約23秒	10～55秒	約47秒	20～145秒

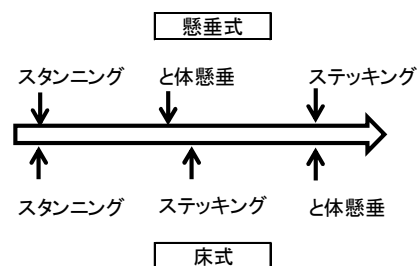


図2 と畜手順

### 3 心臓周囲動脈の切断状況について

心臓周囲動脈の切断状況における性差は特に認められなかったが、床式において倒れた牛体の方向については、右上の状態が50.5%、左上の状態が30.4%が適正な位置で切断されており、右上の状態のほうが適正な切断を行える傾向にあった。（表3・4）

またスタニング後の四肢の動きが激しい牛ほど、切断部位が不適である傾向が認め

られた。(表5) 放血方式による切断状況は、適正な位置での切断が懸垂式で35.7%、床式で37.1%と大きな差異は認められなかった。

ナイフによる心臓への刺し傷が19例(心耳周辺13例中央部6例)、心内膜出血が1例確認されたが、枝肉でのスポット発生は認められなかった。

表5 心臓周囲動脈の切断状況  
(ステッキング後の四肢の動き)

四肢の動き	適	不適
— 弱	39.8%	60.2%
+	25.6%	74.4%
++	21.1%	78.9%
+++	11.8%	88.2%
++++ 強	0.0%	100.0%

表3 心臓周囲動脈の切断状況(性差)

	適	不適
去勢	37.8%	62.2%
雌	35.8%	64.2%

表4 心臓周囲動脈の切断状況(と体の向き)

	適	不適
右上	50.5%	49.5%
左上	30.4%	69.6%

### 考 察

平成26年度のスポット発生は、一部の肥育農家の牛に偏っており、全体の約8割を占めていた。輸送ストレスやビタミン制限等の飼料などによる高血圧や血管の脆弱化などもスポット発生の要因の一つと考えられると言われており<sup>(1)</sup>、今後は、と畜作業の見直しだけでなく、肥育農家へのデータ還元などによるスポット発生予防への取り組みも検討していく必要があると考える。

今回の調査では、心臓周囲動脈の切断部位を記録した牛にスポット発生がなかったため、その因果関係が確認できなかった。しかしステッキング後の四肢の動きと心臓周囲動脈の切断状況の結果から示唆されるように、適正な位置以外での切断では、脳への血液が遮断されていないことによる失神維持時間の短縮及び覚醒、腹腔内への残血等の可能性が否定できない。また作業時のと体の向きにより切断部位に違いが現れる傾向があり、今後、作業手順の見直し等により切断状況を改善することにより、スポット発生防止につながることが期待される。

また、懸垂式では、スタンニング後50秒以内での放血ではスポット発生がみられなかったことから、スタンニング後の四肢の動きにより不動化装置使用を見極めることもスポット発生防止に有効であると考えられた。一方、今回採用した床式の放血では現在までスポット発生は報告されていないが、すべての処理がスタンニング後55秒でステッキングされていることから、1分以内の放血処理が有効であると考えられた。

スポット発生の低減は、経済効果だけでなく、スポット発生に対する作業担当者への精神的重圧を軽減し、衛生的な食肉処理業務に専念してもらうため必要なことである。今後もデータを積み重ね原因を追究するとともに、と畜業者等の相談に対し適正な助言をしていく必要がある。

### 引用文献

- (1) 京都市衛生公害研究所病理部門：牛枝肉の多発性出血斑(スポット)について 京都市衛公研年報 62 86-89(1996)

## 第 6 章 付 表



# 1 岐阜市食肉地方卸売市場概要

## (1) 概 要

ア 位 置	岐阜市境川5丁目148番地		
イ 敷 地 面 積	21,879.93 m <sup>2</sup>		
ウ 建 物 面 積	7,814.73 m <sup>2</sup>		
エ 能 力	と畜処理能力(1日)	大動物 75頭	小動物 600頭
	汚水処理能力(日量)	1,500m <sup>3</sup>	
	冷蔵能力(小動物に換算)	1,050頭	
	汚泥脱水能力	4,000kg	
	収容能力	大動物 115頭	小動物 560頭
オ 建 築 年 月 日	昭和42年11月 岐阜市食肉センターとして竣工		
カ 建 築 物			

名 称	面 積	備 考
1. 本 館 棟	4,105.78 m <sup>2</sup>	大動物と室 小動物と室 冷蔵庫 懸肉室兼せり場
2. 事 務 棟	381.60 m <sup>2</sup>	大動物解体室 小動物解体室
3. 控 室 棟	132.46 m <sup>2</sup>	内臓処理室 枝肉処理場
4. 作 業 員 控 室	64.80 m <sup>2</sup>	大動物係留所 小動物収容所
5. 調 理 師 控 室	64.80 m <sup>2</sup>	市管理事務所 関係事務所
6. 現 業 員 控 室	39.58 m <sup>2</sup>	管理人住宅 買受人控室
7. 倉 庫	48.60 m <sup>2</sup>	会議室
8. 病 畜 と 室	50.00 m <sup>2</sup>	
9. 焼 却 炉 上 屋	98.99 m <sup>2</sup>	
10. 洗 車 場	64.00 m <sup>2</sup>	
11. 汚 水 浄 化 槽	1,942.40 m <sup>2</sup>	
12. ブ ロ ア ー 室	49.17 m <sup>2</sup>	
13. 汚 泥 処 理 場	173.00 m <sup>2</sup>	
14. ポ ン プ 室	9.00 m <sup>2</sup>	
15. 廃 棄 物 処 理 棟	59.42 m <sup>2</sup>	
16. お が く ず 置 場	30.00 m <sup>2</sup>	
17. 受 付 棟	4.53 m <sup>2</sup>	
18. 冷 蔵 庫 棟	496.60 m <sup>2</sup>	

## キ 機 構

- 岐 阜 市 施設の維持管理及び業務の指導監督  
食肉検査(岐阜市保健所食肉衛生検査所)
- 卸 売 業 者 株式会社 岐阜県畜産公社(荷受機関)  
授權資本金 5,200万円 払込済資本金 4,950万円  
県 700万円 市 700万円 全農 1,350万円 県信連 400万円  
県食肉連 1,700万円 県家畜商組合 100万円  
岐阜県卸売市場条例に基づき、市場を通じ食肉の委託販売を行う機関で  
あり、食肉の販売代金を基準とする手数料を収受し業務を運営する者
- 買 受 人 市長の承認を受け、本市場でのせり売りに参加し食肉の買受けをする者
- 付 属 営 業 人 市長の承認を受け、本市場での市場業務に附帯した業務を行う者
- 日 本 食 肉 協 会 牛、豚の枝肉の規格格付けを行う者